

第2回「県立高校の将来ビジョン検討委員会」会次第

日時・場所

- 1 日時 令和7年7月28日（月曜日）午後2時から午後4時まで
- 2 場所 鹿児島県庁行政庁舎16階【教育委員会室】

会次第

- 1 開会
- 2 前回議事録（概要）の確認
- 3 協議・意見交換
検討事項：「生徒の多様な学びのニーズへの対応」
- 4 閉会

【配布資料】

(1) 資料Ⅰ

- ① 座席図
- ② 委員名簿
- ③ 前回議事録（概要）

(2) 資料Ⅱ

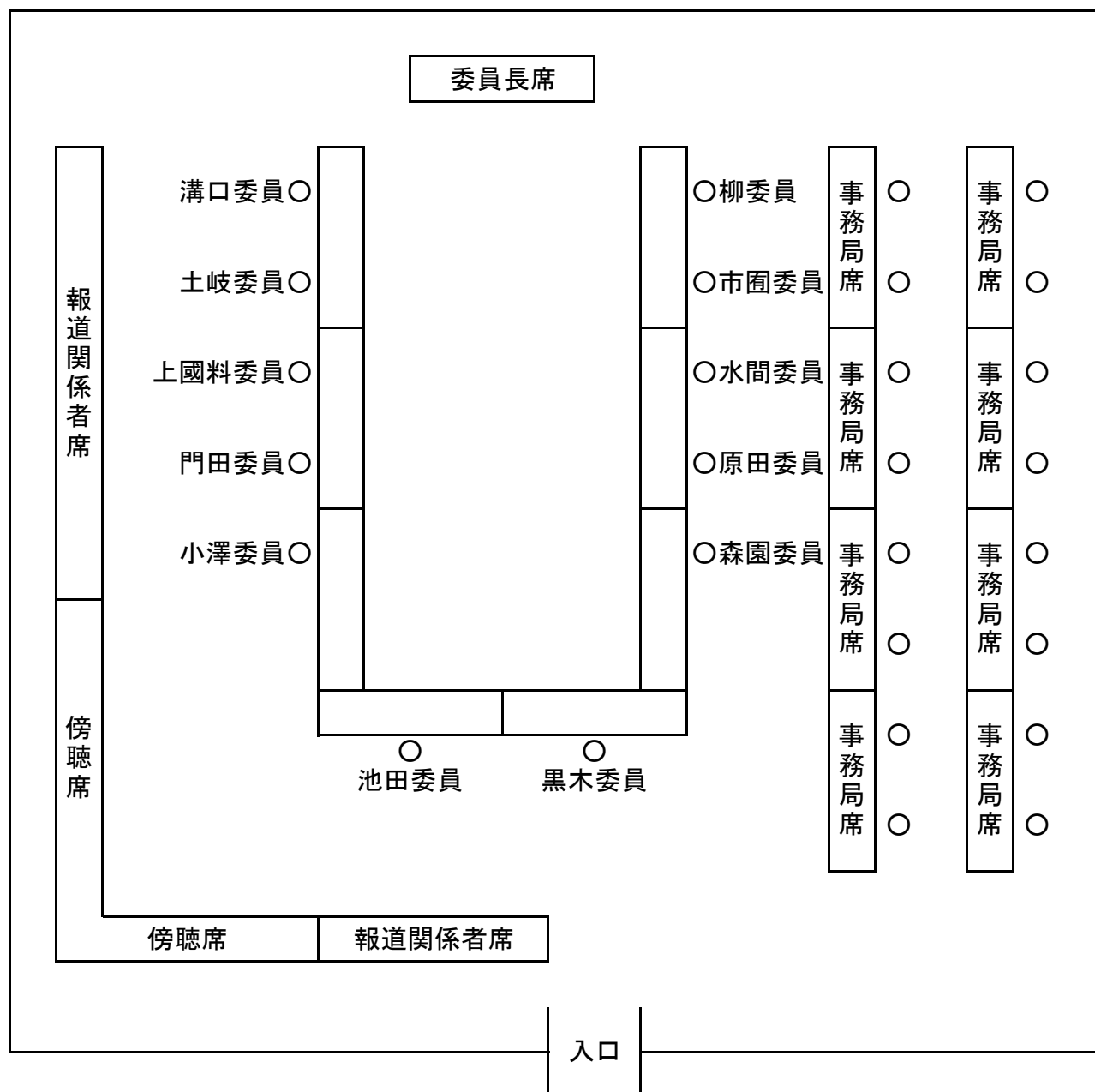
- ① 検討依頼事項
- ② 本県における「不登校生徒」の現状
- ③ 「学びの多様化学校」
- ④ 「定時制」・「通信制」
- ⑤ 本県県立高校における「定時制」の現状
- ⑥ 本県県立高校における「通信制」の現状
- ⑦ 「単位制」
- ⑧ 本県県立高校における「単位制」の現状
- ⑨ 定時制・通信制課程における多様な取組事例
- ⑩ 本県公立高校における「特別支援教育」の現状

(3) 参考資料

- 高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ参考資料集
（資料Ⅱとの関連部分について一部抜粋）

第2回「県立高校の将来ビジョン検討委員会」座席図

(教 育 委 員 会 室)



○ オンライン参加：塩瀬委員

「県立高校の将来ビジョン検討委員会」委員名簿

	氏 名	所 属 等
学識経験者	溝 口 和 宏	鹿児島大学 教育学部長 法文教育学域教育学系 教授 (教育学研究科学校教育実践高度化専攻 専任)
	塩 瀬 隆 之	京都大学 総合博物館 研究部情報発信系 准教授
	土 岐 玲 奈	星槎大学大学院 教育学研究科 准教授
産業界等の 各種団体関係者	上國料 智 紀	鹿児島県農業協同組合中央会 専務理事
	門 田 晶 子	鹿児島経済同友会 教育・人材育成委員会 委員長
	池 上 昌 弘	株式会社リバネス 取締役ＣＦＯ
	小 澤 妙 子	特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト
行政関係者	本 坊 輝 雄	鹿児島県市長会 会長（南さつま市長）
	上 野 俊 市	鹿児島県町村会（さつま町長）
	池 田 浩 一	鹿児島県市町村教育長会（霧島市教育長）
学校関係者	黒 木 誠	鹿児島県連合校長協会 高等学校長部会長
	森 園 守	鹿児島県連合校長協会 中学校長部会長
	原 田 賢 幸	鹿児島県私立中学高等学校協会 会長
	水 間 悦 郎	鹿児島県高等学校教職員組合 書記長
保護者代表	市 囿 豪	鹿児島県ＰＴＡ連合会 会長
公募	柳 良太郎	一般公募

第1回「県立高校の将来ビジョン検討委員会」について

- 1 日 時 令和7年6月10日（火曜日）午後1時から午後2時30分まで
- 2 場 所 鹿児島県庁行政庁舎16階【教育委員会室】
- 3 出席委員 溝口委員，上國料委員，門田委員，小澤委員，本坊委員，上野委員，
黒木委員，森園委員，原田委員，水間委員，市園委員，柳委員
【オンライン】塩瀬委員，土岐委員，池上委員

4 公開・非公開の別：公開

5 傍聴者数：3人

6 協議事項等

(1) 委員長等の選出

溝口委員を委員長に選出，池田委員を副委員長に指名

(2) 検討依頼事項及び検討スケジュール

(3) 本県の高校教育の現状等

(4) 質疑・意見交換

7 主な質疑

Q 開陽高校通信制について，定員を設定しない理由があるのか。

A 確認後，回答したい。

Q 授業の満足度や理解度は，学年が上がるにつれて低下していくとの資料が出されているが，具体的な理由を把握していれば，教えていただきたい。

A 「高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ」からの引用資料である。この件について本県では調査は行っていないが，学年が進むにつれて扱う内容が深化するため，それに伴って理解度が下がることなどが考えられる。

Q 以前から，公立と私立の連携が大切であると言われてきたが，公私連携について，どのように考えているか。

A 公私連携については，公立と私立が相携えつつ，県民の期待に応えるために取り組んでいる。年1回，協議会の場を設け，県教育委員会が考えていることや，私立の意見など，お互いの考えを付き合わせながら，共通理解のもと進めている。

Q 県教育委員会の取り組みとして紹介された「居場所」と「絆」プロジェクトについて，どういったことが具体的に行われているのか。

A 安全安心な学び，或いは安全安心な環境などについて，生徒のニーズを把握しながら，学校で改善できる点を改善していくことを目指す。学校と県教育委員会が連携し，サポートを行う事業である。

Q 広域の通信制高校に在籍する（県内の）生徒の状況について，何か情報はあるか。

A 広域通信制の生徒の状況については，資料を持ち合わせていない。

Q へき地にある学校や小規模校でも都市部の学校と同じようなことを学べるのか。

A 本県では小規模校サポート事業に取り組んでおり，小規模校単独では実施できない学校行事等を，小規模校同士で連携して実施することで，質の充実に努めている。県教育委員会としては，生徒がどの学校に進学しても学びたい学びができるような教育の充実に務めている。

- Q 検討事項の中で、特に課題認識が強いポイントや大事にされているところなど、優先順位があるのか教えていただきたい。
- A 特に優先順位はない。検討事項である「生徒の多様な学びのニーズへの対応」、
「生徒数減少への対応」について、幅広く御意見をいただきたい。
- Q 検討事項に「生徒の多様な学びのニーズへの対応」を挙げているが、このニーズについて、生徒や保護者などの現場のニーズについて、県は調査しているのか。
- A 生徒や保護者を対象にしたニーズ調査は実施していないが、この検討を進めていく中で、生徒の意見を聞く機会は必要だと考えている。
- Q 学校のあり方を考える上で、子供たちの声を入れるチャンスがあるのか。
- A 子供たちの意見を聞く機会を持つことは必要だと考えており、ビジョンを策定していく中で、子供たちの意見を取り入れていきたい。

8 主な意見

- 国の施策で授業料無償化が進められているが、人口減少社会の中において県立高校は、大きな岐路に立っている。少しでも将来の展望が開けるような実効性のある提言をしていきたい。
- 私学は、各時代の流れや子どもたちのニーズをしっかりとキャッチしている。授業料無償化が進んだから私学の生徒数が増えたということではない。
- 広域通信制の生徒数が増える中、その実態がつかみにくいという課題があるが、それを把握することが、検討の一つのポイントとなるのではないかな。
- 適正規模について語る解像度を高める必要がある。適正規模とは、生徒にとって必要な規模と、地域にとって必要な規模で異なる。教員数の関係から、どうしても必要という規模も存在する。少人数でも問題ない教科もあれば、一定の人数が必要となる教科もある。どのような視点を重視して鹿児島県下の高校教育を検討していくのかを明確にしておく必要がある。
- 子供たちが行きたいと思える学校とは、なぜ不登校が多いのかなどについて、データに基づいて議論する必要がある。生徒が通いたいと感じる学校づくり、特色化・魅力化について議論を深めたい。
- 憲法が保障する権利、「子どもの権利条約」、「子ども基本法」などを踏まえると、子供の意見を反映させることが重要である。
- 当法人では「不登校の子供の育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査」を実施し、報告書を上げている。鹿児島に限定されない資料ではあるが、検討の材料にしていただければと思う。
- 県立高校の将来像をまとめる中で、それを実践するために必要な教員の確保が課題となるのではないかな。
- 人、物、金、情報この四つを開示した上で議論する必要があるのではないかな。限られた予算の中でどのように進めていくのか、また、教員の確保をどのように行っていくのか、そのような点まで踏み込んで議論する必要がある。
- 学校がこうなってほしいという子供たちの意見と、大人の理想像を取り入れながら、鹿児島らしいものが作れたらいいと感じている。
- 地域によって置かれた状況は異なる。地元自治体は、地域と共に歩む学校をどのように支えていくかを考えている。現実的な状況をしっかりと見極め、対応していただきたい。